

第8回シェイクスピア・ワークショップ

メンバー： 雨森 未来（福岡女子大学非常勤講師）
 國崎 倫（北九州市立大学非常勤講師）
 山田 佳子（熊本県立大学大学院・博士後期課程）
司会： 國崎 倫
コメンテーター：大島 久雄（九州大学准教授）
 冬木 ひろみ（早稲田大学教授）

（要旨）

2013年10月5日（土）、6日（日）に鹿児島大学で開催された日本シェイクスピア学会の2日目、第8回シェイクスピア・ワークショップが上記のメンバーにより行われました。6月下旬の自己紹介にはじまり、それぞれの原稿とメンバーへのコメントを定期的に提出・交換しながら、研究内容について推敲を重ねていきました。

雨森さんは『アントニーとクレオパトラ』におけるマニエリスム論—材源との比較からみえる不調和—と題し、劇中にあらわれるマニエリスムの特徴を検証しました。秩序と均衡と調和を基礎とする古典主義に対抗し、歪曲と矛盾と不調和をあらわすマニエリスムの表現方法が登場人物の造形に用いられ、さらに劇の構成にも影響を与えることを検証しました。古典的英雄となりえず、アイデンティティの崩壊にさらされるアントニーの姿は形成と解体を同時に表現できるアナモルフォーズの視点から見ることができます。また、材源であるプルタークの『英雄伝』との構造的な違いを踏まえ、クライマックスの場面では悲劇性が歪められていることを指摘しました。アントニーとクレオパトラが自決を行う場面では、シェイクスピアが独自に挿入したコミカルな情景が悲劇性を弱め、部下の潔い自決と侍女による突然の死は主人公たちの見せ場を邪魔します。絵画の中で遠近法を歪曲させることで視覚化されるマニエリスムが劇中で表象と構造に与える作用に関して論じました。

山田さんは「Marlowe と Shakespeare —*The Jew of Malta* および *The Merchant of Venice* にみるユダヤ人観—」と題し、Barabas と Shylock に焦点をあてたうえで、ユダヤ人とキリスト教徒を対比させて論を進めました。当時の劇に表象されるユダヤ人のように、一見抑圧された存在として描かれる Barabas と Shylock ですが、窮地にあつてユダヤ人もキリスト教徒と同じであると訴えます。また、悪として断罪され、キリスト教徒の慈悲や救済を押し付けられる二人は、視点を変えれば、正義であるはずのキリスト教徒の悪魔的ともいえる面を明かす存在ともなり得ます。したがって、Marlowe と Shakespeare は、それまでは金貸しの悪党を表象するだけに留まっていたユダヤ人を、キリスト教社会の価値観を描くにあつての試金石として用いているのではないかと考察しました。

國崎は「*Hamlet* (1600)における死表象とモグラ研究」と題し、“mole”(1.5.162)をきつ

かけとして、文学作品におけるモグラの寓意性と象徴性を確認することより始めました。まず、モグラの概念とは、盲目、すぐれた聴覚、穴を掘る、有害生物、不浄、異教徒などであり、作品における“mole”とは舞台演出において亡霊が奈落の底を素早く移動する様子を表現するだけでなく、演劇というミームスにおいて民衆の日常生活にもとづくリアリティを喚起する語だといえます。“mole”は厳粛な場面に不適切な戯れの様相を示す結果、本来あるべき恐怖や畏敬の念をバーレスク化した笑いへと変え、^{プラテア}場が^{ロクス}座へ侵入することを可能にします。さらに、四旬節を目前にしたカーニヴァルの最終日、“mole”が死後の世界のモチーフとなった例が確認され、また、過去にペストが猛威をふるったいくつかの言語圏では、モグラの登場する諺が死を意味します。何気ない一語“mole”ですが、その示すものは「死」であり、作品冒頭における「死」の遊戯的隠喩が観客を生と死の問題へと誘っていると指摘しました。

それぞれの研究対象は異なりましたが、意見を率直に交換することで新たな視点や共通点などが見えはじめ、各論の発展に協力し合うことができたのではないかとふりかえります。コメンテーターの冬木ひろみ先生、大島久雄先生からは、あたたかいコメントだけでなく、個の研究においては気付かない点やとりつけなかった情報・文献をご指摘いただき、メンバーはワークショップに参加させていただくことのありがたさを実感いたしました。さらに、佐野隆弥先生がディスカッションに加わってくださり、私たちに惜しみなくご指導をくださいました。ワークショップへの参加の機会をくださり、あたたかくご指導くださいました先生方へ深くお礼を申し上げます。今回の出会いによって、互いに刺激しあう研究仲間の輪も広まり、今後への意欲を高めることができました。これからもそれぞれの研究に邁進したいと感じております。



